

老いて尚どきどきのあるクラス会

田中 たづ子

得る年令も九十代ではもう結構

重宗 隆治

あわてない疑わしきはまず自分

藤井 節子

八代亜紀記念碑見ては懐かしむ

磯部 佳子

鬼は外いっしょに出るなうちの福

永田 政子

おいてなおどきどきのあるくらすかい

たなか たづこ

えるとしもきゅうじゅうだいではもうけっこう

しげおね たかじ

あわてないうたがわしきはまずじぶん

ふじい せつこ

やしろあききねんひみてはなつかしむ

いそべ けいこ

おにはそといっしょにでるなうちのふく

ながた まさこ

重り揺れ圧力鍋の鯰大根

光井 加代子

道草の声の久々犬ふぐり

林 保江

登校の児らが踏み割る薄氷

馬場 精作

春めくや投釣り習ふ児ら笑顔

金内 憲一

春待つや和菓子之和紙に透ける紅

藤岡 久美子

おもりゆれあつりよくなべのぶりだいこん

みつい かよこ

みちくさのこえのひさびさいぬふぐり

はやし やすえ

とうこうのこらがふみわるうすごおり

ばば せいさく

はるめくやなげづりならふこらえがお

かねうち けんいち

はるまつやわがしのわしにすけるべに

ふじおか くみこ

背を丸め米蒸す大釜焚口の
真剣に君味噌作りに向く

江川 詳子

何時の間に年を重ねて来たのやら
昭和一桁卒寿になりて

川本 禮子

かじかんでめくれぬ新聞領収書
手を貸し受け取る十二月分

山口 正子

ママあそこ娘の指す空を仰ぎ見れば
冬の虹橋鮮やかに冴ゆ

賤間 星

両耳の付いたパーカー着せられて
散歩の犬も冬のパージョン

原田 たえこ

せをまるめこめおすおおがまたきぐちの
しんけんにかみみそづくりにむく

えがわ しょうこ

いつのまにとしをかさねてきたのやら
しょうわひとけたそつじゅになりて

かわもと れいこ

かじかんでめくれぬしんぶんりょうしゅうしよ
てをかしうけとるじゅうにがつぶん

やまぐち まさこ

ママあそここのさすそらをおおぎみれば
ふゆのにじばしあぎやかにさゆ

ざいま ほし

りょうみみのついたぱーかーきせられて
さんぽのいぬもふゆのぱーじょん

はらだ たえこ

降りてきた言葉を掴む

池田 幸

君の瞳に映る新しい毎日に乾杯

田中 秀子

ひとりぼっちの友 ただ肩をだく

田中 律子

おでかけですか二番線ホームを歩くねこ

田中 里美

眼を病んでも自治会長 大きな達筆メモ

権代 祥一

おりてきたことばをつかむ

いけだ みゆき

きみのひとみにうつるあたらしいまいにちにかんぱい

たなか ひでこ

ひとりぼっちのとも ただかたをだく

たなか りつこ

おでかけですかにばんせんほーむをあるくねこ

たなか さとみ

めをやんでもじちかいちようおおきなたっぴつめも

ごんたい しょういち